



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

「天狗の羽団扇」

大昔ですが子どもの頃、おたふくかぜにかかり、ほったが赤く大きくふくらんだ記憶があります。心配した母が、どこから伝え聞いたのやら、ヤツデの葉を私の腫れた頬に張り付けました。効果の程は覚えていないのですが、想像するとおかしな姿です。すぐに剥がれているはずですが、無事今がありますので効果有りでしょう。迷信とはいえ行動してくれた母に感謝です。

この夏、のんびりと和歌山県由良町の「興国寺」を訪れました。理由は名所案内マップに載った写真がユニークだったからなのです。でっかい天狗の顔がお堂にでんと据えられているのです。そして、右傍には大きな団扇があるのです。面白いか行ってみようかと友人とミニドライブに出発。

興国寺本堂に向かつて左奥に天狗堂があります。入口には大きな数珠がぶら下がり、奥を見ると大きな赤い

顔でぐりぐり目玉の天狗がおられます。もちろん天狗鼻。威嚇というよりはアヌッぽい愉快さがあります。冒頭に書きましたヤツデ(八つ手)の葉は大きくてこの天狗の団扇に似ています。別名はテングノハウチワ(天狗の羽団扇)で、どこにでも見られます。

天狗の団扇は空を飛ぶ天狗の羽根で作られ、お堂の羽根は11枚でした。植物のヤツデの葉はほぼ偶数ではなく奇数に割けるようです。偶数8は学名の発音が由来です。

ヤツデの葉は生薬として「八角金盤」と呼ばれ、去痰・リウマチなどに使ったようです。成分のヤツデサポニンに殺虫効果が有り厠近くのおちこちに植えられたようです。私の手持ちの漢方薬や民間薬の本にはヤツデの記載が見られません。ところが、疫病を追い払い、病魔・魔除けになると言い伝えられています。ですので、私のおたふくかぜに母がヤツデを張り付けたのも、そんなおまじないか迷

信?からのことだったのでしょう。

興国寺は豊臣秀吉の紀州攻めで焼失した時、大きな天狗が現れ一夜にして再建したという言い伝えがあるそうです。

興国寺に貢献した法燈国師(ぼつとうこくし)は宋に渡り修行し、帰朝の際に金山寺味噌や尺八をもたらしました。金山寺味噌は米・大豆・麦を麹につけ、白瓜・茄子・生姜・紫蘇などの野菜を漬け込み、長期間熟成させた発酵保存食品です。栄養のバランスに優れた和歌山の伝統食です。和歌山名物の茶粥や酒の肴にもよく合います。湯浅のお醤油は金山寺味噌の上澄みから見出されました。静寂の中の興国寺は清潔感満点でした。

(東灘区薬剤師会 鹿嶋純子)

